



記録集

一般社団法人山梨県言語聴覚士会
第12回学術大会
共生社会の実現にむけて
～言語聴覚士がつなぐ地域の和～

会期

令和元年12月8日(日)

大会長

高橋 正和(石和温泉病院)

会場

山梨大学医学部キャンパス 臨床大講堂

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第12回学術大会

記 録 集

会 期 令和元年 12 月 8 日 (日)

会 場 山梨大学医学部キャンパス 臨床大講堂
〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110 番地
TEL : 055-273-1111

事務部 甲州リハビリテーション病院
リハビリテーション部
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 2031
TEL : 055-262-3121

後 援

一般社団法人日本言語聴覚士協会
山梨県
一般社団法人山梨県医師会
山梨県リハビリテーション病院・施設協議会
一般社団法人山梨県民間病院協会
一般社団法人山梨県理学療法士会
一般社団法人山梨県作業療法士会
公益社団法人山梨県看護協会
山梨県老人保健施設協議会
一般社団法人山梨県介護支援専門員協会
山梨県医療社会事業協会
一般社団法人山梨県介護福祉士会 (順不同)

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 事務局
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科
〒406-0014 笛吹市春日居町国府 436
TEL : 0553-26-4126 FAX : 0553-26-4366

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| ご挨拶 | 3 |
| 大会プログラム | 6 |
| 特別講演 I | 7 |
| 「笑顔の授業」～失語症理解の普及に向けた取り組み～ | |
| 鶺鴒リハビリテーション病院 伊藤 梓 | |
| 東京海上日動火災保険株式会社 池田 博之、流石 巖 | |
| 特別講演 II | 19 |
| 失語症者向け意思疎通支援事業について | |
| 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 | |
| 自立支援振興室 室長補佐 塩野 勝明 | |
| 一般演題 | 26 |
| 慢性期失語症者に対する聴覚的理解訓練の検討 | |
| 甲府城南病院 秋山 仁哉 | |
| 伝導失語の診断に至った一症例 ―呼称場面の分析を中心に― | |
| 甲州リハビリテーション病院 上川 若菜 | |
| 訪問 ST での失語症者における目標共有の必要性について | |
| 湯村温泉病院 岡 大樹 | |
| 失語症友の会会員の生活と社会参加の実態 | |
| 北杜市立塩川病院 向 亜希香 | |
| 当院における干渉電流型低周波治療機器の実践報告 | |
| 石和共立病院 太田 真未 | |
| 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のコミュニケーション支援と今後の課題 | |
| 山梨市立牧丘病院 和泉 裕二 | |
| 重症心身障害児における三項関係の成立に関する一考察 | |
| ～ボールを用いたやりとりにおける反応の過程～ | |
| 国立病院機構甲府病院 小松 富美子 | |
| 学びやすい環境を選択できるように寄り添った支援 | |
| 甲府共立診療所 増田 歩実 | |
| アンケート結果 | 58 |
| 実行委員名簿 | 61 |

第 12 回学術大会を終えて

一般社団法人山梨県言語聴覚士会第 12 回学術大会 大会長 高橋 正和

令和元年 12 月 8 日（日）、山梨大学医学部キャンパス臨床大講堂にて開催されました一般社団法人山梨県言語聴覚士会第 12 回学術大会は、参加者 80 名（県士会員 78 名）にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加・ご支援をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。

今大会は「共生社会の実現に向けて～言語聴覚士がつなぐ地域の和～」をテーマとして、2つの特別講演、賛助会員による製品紹介、ならびに 8 題の一般口演があり、活発なご討議と学術的な研鑽に加え、多くの情報交換・収集をしていただけたことと存じます。

特別講演Ⅰでは、「笑顔の授業」～失語症理解の普及に向けた取組み～として池田博之氏（東京海上日動）、流石巖氏（東京海上日動）、伊藤梓先生（鵜飼リハビリテーション病院）にご講演をいただき、この講演会活動にご尽力されている森田秋子先生（鵜飼リハビリテーション病院）を座長としてお招きいたしました。失語症の当事者である池田氏が職場に復帰し、苦労や葛藤を乗り越え、その中で自分の役割を獲得し、生き生きと活動されている姿はととても印象的でした。また、そのサポートをするご家族や上司、同僚の方々へのメッセージにも熱く込み上げてくるものがありました。言語聴覚士である伊藤先生からは、その支援として急性期から回復期、そして生活期の言語聴覚士の関わりなどをお話していただきました。特別講演Ⅱでは厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部の塩野勝明氏から「失語症者向け意思疎通支援事業について」の説明を受け、これまでの経緯や今後の展望など大変興味深いご講演をいただきました。また当日は、復興支援チャリティバザーも開催され、多くの皆様にご賛同いただき誠にありがとうございました。会期中はご不便をおかけした点多々あったかと存じますが、参加された皆様のおかげで大変充実した学術大会にすることができたと改めて感謝申し上げます。

末筆ながら、ご多忙の中、査読や座長をお引き受けいただいた先生方、学術大会の企画・運営にご協力いただきました県士会および実行委員の皆様々に心より感謝申し上げます。

第 12 回学術大会を終えて

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史

この度、第 12 回学術大会が令和元年 12 月 8 日に多くの会員が参加され盛会に行われたことを嬉しく思います。開催にあたり事前の準備ならびに当日の運営に携われた高橋正和大会長、元木雄一郎実行委員長をはじめ実行委員、査読委員の皆様にも県士会を代表してお礼を申し上げます。

今年には県士会が設立されて 20 年を迎える中、第 1 回学術大会は平成 21 年 2 月 22 日に開催されて以来 12 年を経過し、今では自己研鑽や人材育成の場として重要な事業となっております。

今大会のテーマ「共生社会の実現に向けて～言語聴覚士がつなぐ地域の和～」は病气や障害の有無に関わらず誰もが安心して暮らし続ける社会を創造するためには言語聴覚士として地域職能団体として何ができるのかを各自で再確認して欲しいという願いが込められております。

今大会の特別講演は、失語症のある方の職場復帰とそれを支える周囲の環境をテーマに東京海上日動火災保険株式会社の池田博之氏と鶴飼リハビリテーション病院 言語聴覚士の伊藤梓先生にご講演をいただきました。急性期から回復期、そして生活期へ言語聴覚療法を繋いだ言語聴覚士の連携をはじめ、本人に役割を持っていただき、本人が活かされる職場環境を構築された流石 巖氏の取り組みは非常に興味深く感動も与えていただき、自らの言語聴覚士像を見つめ直す契機となりました。また、失語症のある方に関わる意思疎通支援事業について厚生労働省の塩野勝明氏（社会・養護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室 室長補佐）からは本事業の制度に至るまでの過程や具体的な取り組みについて説明を受けました。山梨県障害福祉部の方も会場に足を運んでいただき今後の山梨県での地域生活支援事業の展開にとって起爆剤になったと確信しております。

今回の口演には 8 演題がエントリーしていただきました。発表をされた 8 名の会員の方は当日の発表を迎えるまでには大変な苦労があったかと思いますが、どれも努力した成果がみられる発表であったと思います。座長が時間を気にするほど会場からの質疑応答も活発であり、有意義な口演であったと思います。本大会での口演の経験の礎とし日本言語聴覚学会をはじめとする全国の学会発表へと繋げた会員も多くいます。今後のキャリアアップとして是非チャレンジして下さい。

地域包括ケアシステムの構築・推進が図られ「医療から介護へ」、「病院・施設から地域・在宅へ」という流れが主流となる社会保障制度の変化に伴い、言語聴覚士の果たす役割も大きく変わりつつあります。このような時代背景にあるからこそ我々の対象者が家庭に帰った後も生き活きとした生活を継続できるように“言語聴覚士のあるべき姿”、“県士会が担う役割”について考える機会にして欲しいと思います。

次年度の第 13 回学術大会は第 3 回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会となります。理学療法士会が事務局を担当し 3 士会の協働のもと開催されます。当会のこれまでの学術大会で蓄積された“経験”と“力”で運営をサポートし、一層の盛会となるよう心から願っております。

第 12 回学術大会を終えて

実行委員長 甲州リハビリテーション病院 元木雄一朗

令和元年 12 月 8 日に山梨大学医学部キャンパス臨床大講堂で開催されました一般社団法人山梨県言語聴覚士会第 12 回学術大会は多くの参加者に恵まれ、盛会に終了することができました。今大会のテーマは「共生社会の実現に向けて～言語聴覚士がつなぐ地域の和～」とし、東京海上日動火災保険株式会社の池田博之氏、流石巖氏、鶺鴒リハビリテーション病院の伊藤梓先生による「笑顔の授業～失語症理解の普及に向けた取り組み～」の特別講演、厚生労働省の塩野勝明氏による「失語症者意思疎通事業について」の特別講演、一般口演 8 演題を企画しました。

言語聴覚士として、患者さんと向き合い回復を信じて取り組むことの重要性を改めて感じる大会となりました。地域のニーズに答えるためには高度な知識・技術に基づいた言語聴覚療法の実践、当事者への充実した支援、さらに関係諸機関との連携・協働などが必要だと思います。そして専門職の向上はもとより地域から信頼される専門職として成長していくことの重要性を考える機会になったと思います。今大会がこれからの地域づくりと言語聴覚士の役割について考えることができる機会となりましたら幸いです。



一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第12回学術大会プログラム

8:50 受付開始

9:20 開会式

開会挨拶
大会長挨拶
会長挨拶
日程の説明

9:30 口演1 失語症

座長：吉澤 由香（甲府城南病院）

9:30 慢性期失語症者に対する聴覚的理解訓練の検討

甲府城南病院 秋山 仁哉

9:45 伝導失語の診断に至った一症例 -呼称場面の分析を中心に-

甲州リハビリテーション病院 上川 若菜

10:00 訪問STでの失語症者における目標共有の必要性について

湯村温泉病院 岡 大樹

10:15 失語症友の会会員の生活と社会参加の実態

北杜市立塩川病院 向 亜希香

10:30~10:50 休憩 (20分)

10:50 口演2 Dysarthria・嚥下障害 座長：赤池 洋（山梨大学医学部附属病院）

10:50 当院における干渉電流型低周波治療機器の実践報告

石和共立病院 太田 真未

11:05 筋委縮性側索硬化症（ALS）患者のコミュニケーション支援と今後の課題

山梨市立牧丘病院 和泉 裕二

11:20 口演3 小児

座長：飯塚 周子（甲府共立診療所）

11:20 重症心身障害児における三項関係の成立に関する一考察

～ボールを用いたやりとりにおける反応の過程～

国立病院機構甲府病院 小松 富美子

11:35 学びやすい環境を選択できるように寄り添った支援

甲府共立診療所 増田 歩実

11:50~13:10 昼休み (80分) チャリティバザー・賛助会員の製品紹介

13:10 特別講演Ⅰ 座長：森田 秋子（鶴飼リハビリテーション病院）

「笑顔の授業」 ～失語症理解の普及に向けた取り組み～

鶴飼リハビリテーション病院 言語聴覚士 伊藤 梓

東京海上日動火災保険株式会社 東海・北陸業務支援部担当次長 池田 博之

東京海上日動火災保険株式会社 東海・北陸業務支援部長 流石 巖

14:40 休憩 (20分)

15:00 特別講演Ⅱ

座長：高橋 正和（石和温泉病院）

失語症者向け意思疎通支援事業について

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課

自立支援振興室 室長補佐 塩野 勝明

16:00 閉会式

閉会挨拶
終了

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第12回学術大会 実行委員名簿

大会長：高橋 正和 (石和温泉病院)
 実行委員長：元木 雄一郎 (甲州リハビリテーション病院)

| | |
|---------|---|
| 事 務 部 | ◎赤池 絢 (甲州リハビリテーション病院) 今井 美紀 (甲州リハビリテーション病院) 河村 有美 (甲府城南病院) 佐々木蘭子 (春日居サイバーナイフ・リハビリ病院) 佐野 由佳 (恵信甲府病院) 山田 徹 (笛吹中央病院) |
| 企 画 部 | ◎南 曜子 (石和温泉病院) 小松 富美子 (国立病院機構甲府病院) 坂井 李菜 (勝沼ナーシングセンター) 佐藤 綾美 (甲州リハビリテーション病院) 萩原 由香 (山梨リハビリテーション病院) 林 正裕 (石和温泉病院) |
| 会場運営部 | ◎石田 礼 (山梨大学医学部附属病院) 浅川 裕斗 (甲斐リハビリテーションクリニック) 市川 奈弥 (巨摩共立病院) 宮澤 美鈴 (石和温泉病院) 矢萩 智章 (湯村温泉病院) |
| 編 集 部 | ◎桂川 謙祐 (甲府城南病院) 大室 陽佳 (甲州リハビリテーション病院) 佐藤 淳貴 (甲府城南病院) 杉本 久美子 (山梨リハビリテーション病院) 秦 亮太 (甲府共立病院) |
| 演題採択委員 | ◎内山 量史 (春日居サイバーナイフ・リハビリ病院) 赤池 三紀子 (湯村温泉病院) 赤池 洋 (山梨大学医学部附属病院) 高橋 正和 (石和温泉病院) 元木 雄一郎 (甲州リハビリテーション病院) |
| 査 読 委 員 | ◎元木 雄一郎 (甲州リハビリテーション病院) 飯塚 周子 (甲府共立診療所) 池神 多加子 (湯村温泉病院) 市川 奈弥 (巨摩共立病院) 中嶋 崇博 (山梨県立中央病院) 藤巻 千春 (しらゆり訪問看護ステーション) 吉澤 由香 (甲府城南病院) |

敬称略 50音順 ◎：部長および委員長

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 事務局
 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科
 〒406-0014 笛吹市春日居町国府 436
 TEL：0553-26-4126 FAX：0553-26-4366
 E-mail：st@kasugai-reha.com